

# 予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：農林水産業費 項：林業費 目：森林研究費

## 事業名 森林研究所県単試験調査費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

森林研究所 電話番号：0575-33-2585

E-mail：[c25108@pref.gifu.lg.jp](mailto:c25108@pref.gifu.lg.jp)

1 事業費 16,200 千円（前年度予算額：14,901 千円）

### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	14,901	0	0	0	0	0	12,787	0	2,114
要求額	16,200	0	0	0	0	0	12,710	0	3,490
決定額	16,200	0	0	0	0	0	12,710	0	3,490

## 2 要求内容

### (1) 要求の趣旨（現状と課題）

健全で豊かな森林づくりや林業及び木材産業の振興を図るため、地域のニーズや森林所有者、林業事業者、企業が直面する問題点に対応するため、迅速かつ柔軟に実施する技術開発や基礎的な調査研究、及び技術移転に取り組む。

### (2) 事業内容

#### ○継続研究課題 6 課題

- ・針葉樹人工林の混交林化技術の開発（県費）
- ・中小製材工場向け接着重ね梁の製造に向けた接着性に関する研究（県費）
- ・林地保全に配慮した森林作業道保全手法の研究（県費）
- ・ヒノキ根株心腐れ病の病原菌の解明と植栽木への感染リスクの評価（県費）
- ・樹木根系の分布特性の多様性を考慮した防災林配置技術の開発（外部資金）
- ・成長に優れた苗木を活用した施業モデルの開発（外部資金）

#### ○新規研究課題 9 課題（外部資金の申請予定も含む）

- ・ドローンを活用した省力的なシカ対策に関する研究（県費）
- ・キノコバエ類の物理的防除技術の開発（県費）
- ・山地災害リスクと地形特性を考慮した森林整備計画の研究（県費）

- ・荷重高温乾燥処理によるスギ心割り平角小屋組み横架材の製品・技術開発（外部資金申請予定）
- ・尿素・アンモニアを添加した食用きのこ発酵系による雑草類から養殖用高性能飼料の生産（外部資金申請予定）
- ・IoT温室を活用した苗木育成技術の開発（外部資金申請予定）
- ・ヒノキ根株腐朽病の防除対策に向けた木材腐朽菌の実態解明（外部資金申請予定）
- ・大径丸太の高度利用に資する木材加工技術の開発（外部資金申請予定）
- ・遺伝情報に基づく伊吹山の植生の保全を目的とした固有植物の起源の解明（外部資金申請予定）

### （３）県負担・補助率の考え方

試験研究には試行錯誤が伴い、取り組んでも必ず成果が出るとは限らないなどリスクも大きいため、民間が自ら試験研究を実施することは困難である。よって、県が試験研究に取り組む必要がある。

### （４）類似事業の有無

無

## ３ 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
人件費	1,888	補助職員報酬、労災保険料
費用弁償	80	補助職員旅費（通勤手当相当）
旅費	3,356	職員旅費（調査、打合せ、情報収集、成果発表）
需用費	8,081	試験や調査のための消耗品の購入、公用車の燃料、冊子の作成等
役務費	45	植栽作業の手数料等
委託料	730	研究委託
備品購入費	1,760	
その他	260	学会参加費、高速道路通行料金等
合計	16,200	

### 決定額の考え方

## ４ 参考事項

### （１）各種計画での位置づけ

- ・第３期岐阜県森林づくり基本計画
- ・岐阜県林政部研究推進方針に基づいた森林研究所推進計画（H29～R3年度）

# 事業評価調書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### （事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

「第3期岐阜県森林づくり基本計画」及び「森林研究所推進計画（H29～R3年度）」に沿って、以下のとおり事業を進める。

- ① 健全で豊かな森林づくりや林業及び木材産業の振興のため、地域の課題や現場の声を反映した研究開発及び普及指導活動に取り組む。
- ② 研究者の視点から、長期的な視野に立って地域の特性に応じた課題を探求し、大学その他の研究機関や事業者と連携して研究の幅を広める。
- ③ 研究員、技術者等人材の育成に努める。

### （目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値 <small>(前々年度末時点)</small>	目標	達成率
		件	件			
技術移転の推進 ※関連企業への技術移転	7件 (H27～29)	( )	13件 (H30)	21件 (R元)	30件 (H30～R2) 30件 (R3～R5)	113%
外部資金の導入 ※外部資金による研究課題	20件 (H27～29)	( )	8件 (H30)	8件 (R元)	20件 (H30～R2) 15件 (R3～R5)	80%

### ○指標を設定することができない場合の理由

### （前年度の取組）

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）

地域企業・関係団体へのヒヤリングを実施し、行政要望課題を的確に反映した課題設定を行っている。これらの研究テーマは、研究計画書を作成して行政機関等による評価を経て、研究開発に取り組んでいる。

(前年度の成果)

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果

令和2年度(9月時点)は、11テーマの課題について、新技術の研究開発及び技術支援による社会での実用化を目指し、研究開発に取り組んでいる。このうち、「農薬を使わないキノコバエ類の防除技術の開発」、「要求性能に応じた木材を提供するため、国産大径材丸太の強度から建築部材の強度を予測する技術の開発」、「山地災害リスクを低減する技術の開発」、「AIによる効率的危険斜面抽出及び森林地崩壊予測システムの開発」の4課題は今年度が最終年度であるため、研究成果をわかりやすくまとめ、開発技術を移転する。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か)

○: 必要性が高い      △: 必要性が低い

(評価)

○

健全で豊かな森林づくりや林業及び木材産業の振興を図るため、森林所有者、林業事業者、企業が直面する課題に対して、新技術の研究開発の面から技術支援することで、地域経済の基盤強化に貢献しており、事業の必要性は高い。

・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)

○: 概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている

△: まだ期待どおりの成果が得られていない

(評価)

○

技術移転件数は、年によって変動しているが、研究成果が大いに活用されている。外部資金の導入件数は年による変動はあるが、獲得が困難になっている状況にもかかわらず着実に獲得しており、今後も積極的に応募していく。

・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)

○: 効率化は図られている      △: 向上の余地がある

(評価)

○

各研究課題の予算書、提案書を精査し、課題内容に応じた適切な予算額に査定することで経費の削減を図っている。また、積極的に外部資金に応募し、森林・林業に係る県民の多様なニーズに応えられるように努めている。

### (今後の課題)

#### ・事業が直面する課題や改善が必要な事項

研究成果を普及するため、研究成果発表会、マスコミへの情報提供、イベントでのPRをより積極的に進める必要がある。また、林業普及指導員と連携して、わかりやすい研究成果のPRに一層努める。

外部資金の予算規模縮小に伴い、採択課題数が減少しているため、年々競争率が高くなり、獲得が困難になっている。引き続き、外部資金に積極的に応募していくとともに、研究員の資質向上や他機関との連携をより密に図る必要がある。

### (次年度の方向性)

#### ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

健全で豊かな森林づくりや林業及び木材産業の振興を図るため、より積極的に事業を推進していく必要がある。

森林所有者、林業事業体、企業及び一般県民からの多様な技術相談に応じるとともに、こうした機会を利用して研究開発ニーズの把握に努め、直近のニーズを研究開発に反映し、健全で豊かな森林づくりや林業及び木材産業の振興を進める。